

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300446		
法人名	社会福祉法人 青藍会		
事業所名	ハートホーム宮野グループホーム		
所在地	山口県山口市宮野下2997-5		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	令和2年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年9月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ヶ月に1度偶数月には運営推進会議を入居者様・ご家族様・地域包括の方・地域の方と行い会議後にはあとカフェを設け交流を図っていますが、今年度は新型コロナウイルス感染予防につき2月から中止しています。月ごとの行事では季節感を味わっていただくことで気分転換を図りその都度、写真をホーム内に掲示すると共に毎月グループホーム便りにてご家族様へ入居者様のご様子や活動風景を発信しています。また、脳活性リハビリの一環としてほとんど毎日、ホワイトボードを使用してクイズを行っています。緊急時には、医療と連携を図り訪問看護ステーションが24時間対応できる体制をとり、安心して穏やかに過ごせるように支援しています。一人一人のご利用者様が出来る事を継続して生活できるように個別支援を取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染症対策で面会自粛時に於いても、利用者がこれまで大切にされた馴染みの人や場所との関係継続ができるよう、管理者は利用者家族全員(9名)宅へ毎月電話で、利用者の日常生活状況など詳しく説明されたり、遠くの家族からの要望でリモートを活用されて、盆に2回リモートで家族との面会を実現しておられるなど、工夫して支援しておられます。新型コロナウイルス感染症対策等で、外出がままならない中で、利用者に笑顔や元気が出るように、職員がホワイトボードに日本地図を描かれ、利用者が過去に出かけられた思い出の場所や行きたい場所などについて話をされながらの仮想外出の支援をしておられます。利用者の安心安全の為に、協力医療機関と24時間オンコールで医療連携体制をとっておられます。一人ひとりの生活リズムを大切にされて、心穏やかに過ごせるよう日々の細やかなケアに取り組みまれ、ここ数年インフルエンザやノロウイルス等感染症に感染した利用者はおられず、利用者や家族の安心、安全につながる感染症予防支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲示、毎朝のGH朝礼時にて理念を唱和することで意識を統一し実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示し、毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い、職員間の意識の統一を図り、日々のケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出が難しい方が増えてきているが、毎月のボランティアの方との交流を施設内でも行っている。	法人の拠点施設が自治会に加入している。毎月ボランティアの来訪(傾聴、出張サービスの散髪)があり交流している。階下の拠点施設(通所リハ)で定期的に行っている脳リハビリに参加し、交流している。支援学校生の掃除ボランティアが来訪し、ふれあっている。運営推進会議終了後に「はあとカフェ」を実施している他、地域の人を招いて事業所職員が講師になり、勉強会等も行っているなど、交流している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	はあとカフェで地域の方々を招き、勉強会などを開催している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングや勉強会で取り上げ取り組んでいる。	管理者は、毎月の勉強会やミーティングで評価の意義について職員に説明し、意見交換を行ない、自己評価をするための書類を配布し、管理者がまとめている。前回の評価結果を受け目標達成計画を作成し、全職員が応急手当(怪我の対応)や初期対応(転倒防止)、法人のAEDの使用法の研修参加を増やしているなど、改善に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、入居者様も参加され、地域の方、ご家族の方、地域包括支援センターの方と意見交換にてサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は年6回(コロナウイルス感染拡大防止のため4月、6月、8月は中止)、市担当課、利用者、利用者家族の代表、地域の住民代表やボランティア等が参加し実施している。メンバーからの意見(感染症の注意を促すことや重度化が進み会話困難な利用者への取り組み等)があり、ホワイトボードを利用した食事前の体操を行っているなど、意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	山口市介護保険課の担当者や地域包括支援センターの地区担当者とは、運営推進会議を通して情報交換が行われており、連携が取れている。	運営推進会議に毎回、市の担当者の出席があり、意見や助言を得ている他、必要時には法人の担当者が市との協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、新型コロナ感染症予防のための消毒薬等を届けてもらうなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度法人内の身体拘束委員会に出席し、他部署と合同での勉強会にて知識の向上を図っている。玄関の施錠に関しては、3階ということもあり転落防止のため、安全性を考え施錠はしている。入居者様・ご家族様には説明し理解を得ている。	月1回の法人の「身体拘束等高齢者虐待防止検討委員会」に管理者と職員が参加し、朝の申し送りやミーティングで共有して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。建物の立地上(事業所は3階にある)、家族の了解を得て、階段、ベランダ、エレベーター等の出入口には施錠をしているが、外に出かけたい利用者とは職員が一緒に出かけているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、身体拘束委員会に出席し、ミーティングや勉強会で話し合い、虐待の防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月勉強会を実施しているが、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会は実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際には契約書、重要事項説明書、個人情報使用同意書の内容を説明し質問の時間を取り、納得していただいてから署名・捺印をして頂く。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情やご意見を頂いた場合には、苦情報告書を作成し部署内で閲覧、保管している。職員全員で周知し改善に努めている。	苦情受け付体制、処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や電話、運営推進会議時等で家族からの意見や要望を聞いている。新型コロナウイルス感染症対策で家族の面会ができなくなってから、毎月利用者家族全員(9名)宅へ管理者が電話をして、利用者の近況について説明をしている。遠くの家族から、リモートで利用者の顔が見たいと希望があり、盆に2回リモートで家族との面会を実現し、家族に喜ばれている。日常のケアについての意見や要望は申し送り時やミーティングで共有し、ケアに反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議にて意見や提案を頂いている。週に一度ミーティングに出席し職員からの意見を出来るだけ反映できるよう話し合い改善に努めている。	管理者は朝夕の申し送り時や週1度のミーティング、日常の業務の中で職員から意見や提案を聞いている。再度、月1回のカンファレンスや勉強会で提案された意見や提案、要望の内容をについて話し合い、掘り下げるようにしている。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外・処遇改善手当等支給されていて、有給休暇も2ヶ月に一度は取得できている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には参加するよう促し受講資格のある職員は積極的に受講申し込みを行いケアの向上を目指している。	外部研修は、情報を職員に伝え、勤務の一環として研修機会を提供しているが、最近1年間の受講はない。法人研修は、実務者研修に2名参加している他、緊急時対応、高齢者虐待防止、感染症対策等について実施しており、職員が業務に応じて受講している。接遇については、法人の朝礼時に接遇ミニ研修として実施している。受講後は、内部研修として、毎月のミーティングの中で学んでいる他、管理者と職員がマンツーマンでその職員に応じた内容で行っている。新人研修は法人が行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設サービス部会への参加や他事業所の見学、意見交換などを行いサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にバックグラウンドをご家族様に記入していただき生活歴の把握やアセスメントを行い、ご本人様・ご家族様の要望を伺っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネや職員はご家族様と話し合い要望等を聞き入れ暫定プランを作成し、信頼関係を築く努力をしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の要望意向を取り入れたサービスを導入し、優先順位を考えた対応に努めている。他のサービスとの併用は行っていない。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するのではなく、生活を送る上で共に出来ることを支援することで共同生活での人間関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の絆を壊さないように、ご家族様とご本人様のふれあう場や行事を考え提供し、共に支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある人との関係が途切れないように自由に面会や外出などの出来る環境作り支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、知人や友人の来訪がある。定期的に友人と面会や交流があったが、新型コロナウイルス感染症対策の中で面会ができず、定期的に手紙のやりとりをして、交流を支援している。家族の協力で市外の墓参りと外食、遠くの家族との交流にリモートを活用して面会を行なっているなど、大切にできた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しているが、入居者様の9名中、7名が女性で男性が2名なので、やはり時折孤立されているが、個別ケア支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への転院や死亡退居による場合の契約終了後は相談や支援はできていないのが、現状です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月カンファレンスを実施し、一人ひとりの思いや暮らし方について話し合い、希望・意向について検討している。	入居前に福祉施設を利用していた利用者については前施設から情報提供を受けている。情報不明な利用者には家庭訪問を行っている。入居時の家族からの「きっかけシート」「利用者基本情報」を活用している他、「私から見た父母」を家族に書いてもらい、長年馴染んだ入居前の暮らしの様子を細かく聞き、思いの把握に努めている。日々の関りの中で利用者の日常を詳細に把握し、タブレットの「経過記録」、「申し送り簿」で記録し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握している。把握が困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にバックグラウンドの記入をお願いし、ご本人様の生活歴の把握をしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の個々の日常生活での行動、残存機能を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスで介護計画に対する評価を行い、3ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。ご家族様やご本人様の要望、状態を検討し作成している。	計画作成担当者を中心に、月1回カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医や訪問看護師の意見などを参考にして話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは毎月のカンファレンスで計画作成担当者も参加し行っている。3か月毎にプランの見直しを行い、6か月毎に更新している。利用者の状態や家族の意向に変化が生じた場合は、その都度話し合って現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録に残し、毎月カンファレンスを行うことで情報を共有し、ケアマネに情報提供することでケアプランの見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間医療連携体制を基に訪問看護と連携を図り、体調の変化などの早期発見、早期治療を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は利用者様の重度化に伴い地域のお祭りへの参加は出来ていない。施設内にて本人の力をレクリエーション・個別訓練にて発揮出来るように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2度の往診を実施、ご本人様・ご家族様の希望により、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医を決めている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、月2回往診がある。希望するかかりつけ医への受診は家族の協力を得て支援している。他科受診は状況に応じて支援している。訪問看護師が週1回の健康チェックを行っている。受診結果を家族には処置や薬に変更があった場合電話で行い、変わりなければ毎月の近況報告の電話で行っている。職員間は申し送り簿で共有している。緊急時や夜間、休日は協力医療機関と24時間オンコール体制であり、医療機関の指示を受けて適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護による健康チェックを行い、その時に健康状態の情報提供、気づきを報告し、特変があれば直ぐに受診できる体制を整えている。また、訪問看護よりの確な指導を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、各医療機関の地域連携室と連絡を取り状態報告や情報交換を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の希望により看取りケアを実施している。ご本人様・ご家族様・訪問看護師・医療機関の主治医と常に相談や情報交換を行い、ご家族様へはその都度説明・確認を取りながら、看取りに関する指針を基にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「看取りに関する指針」「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、主治医に相談し、家族や看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設も含め方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急マニュアルや緊急連絡先をファイルにしたり、廊下に貼りだして急変時や事故発生時に的確な対応が出来るよう毎月のミーティングで事故報告、対策を検討している。	事故が発生した場合は、その場にいた職員が「事故報告書」に所定の内容と、事故予防対策を考えて報告の後、管理者がコメントを記入し法人内の他部署の決裁を受け、1ヶ月～2か月の間に事故予防対策の成果をみて対策方法の是非を判定する仕組みになっている。「ヒヤリハット報告書」は発見者が記録し、職員間で共有している。法人研修でAEDの使用について学び、内部研修でも緊急時の対応について学んでいる。拠点施設ごとに応急手当（発熱時の対応等）のスキルアップ研修を行い、研修後は資料を活用して未受講者も含め全職員がアンケートを提出し、実践力を身につける工夫をしている。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。地域の方にも協力体制の依頼と訓練に参加していただくようにしている。(今期はコロナウイルス感染予防につき延期している。)	防災マニュアルに基づき、拠点施設合同で消防訓練を防火管理者を中心に、年2回実施している。1回は消防署の指導を受け利用者也参加し、通報訓練、避難誘導を実施している。もう1回は電送業者の協力を得て、消火器を使った消火訓練を実施している。地域住民に参加の声かけなしているが、参加はなく、今期は新型コロナウイルス感染症対策の為、延期になっている。法人の職員連絡網で周辺に住む職員が協力する体制ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼時に接遇ミニ研修を行い、言葉遣いや言葉かけを確認し、誇りや人権に配慮した行動、言葉かけを行っている。記録、個人情報などは施錠できる場所に保管してある。	職員は毎日朝礼時の接遇ミニ研修で、挨拶、応対、接遇を学び、利用者の人格の尊重や接遇プライバシーの確保、守秘義務の徹底について理解して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言葉づかいに気づいた時は、管理者が指導している。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、レクなどご本人様の希望に沿い実施している。また、自己決定が出来るような声かけを行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で1日の流れが出来ている部分もあるが、食事場所、入浴時間等個々のペースを大切に支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には外出着に着替えられたり、月に1度出張サービスにて希望により散髪を実施される。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片づけをご利用者様と一緒にやっている。 昼食前に口腔体操を行うことで食欲の増進を促している。	法人から三食(主菜副菜)の配食を受け、ご飯と汁物は事業所の厨房で調理している。希望すれば献立の変更もできる。食べやすいように利用者の状態に合わせ形状(きざみ、とろみ、ミキサー食等)の工夫をしている。利用者はお膳拭きやテーブル拭き等を職員と一緒にやっている。季節の行事食(節分の恵方巻の代わりにクレープ巻き、サンマどんぶり、クリスマスケーキ、ちらし寿司、お節料理等)を楽しんでいる。食事前には食前体操で顔と体を動かし、口腔体操でよく噛み、誤嚥を予防するように支援している。ひとり一人が心穏やかに食事ができるよう席の配置を工夫しているなど、食事が楽しみなものになる湯鬼支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食、おやつ時にチェックしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。夕食後、義歯の洗浄を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や声かけを行い排泄チェックシートに記録している。排泄リズムを把握するため、細目にトイレ誘導を実施している。	一人ひとりの排泄パターンに応じた支援をするために細目な排泄記録をとり、利用者に合わせた言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄の自立に向け支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量(目標1500ml)をチェックし、水分不足による便秘に注意している。必要に応じて起床時に冷水や朝食時に牛乳、ヤクルトを提供。また、寒天ゼリーを作り召し上がっていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一番風呂希望や夕食の入浴を希望されるご利用者様に対応している。入浴拒否が見られる場合は無理強いせず、時間を空けて声かけを行っている。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせてゆっくり入浴できるよう個々に応じて支援している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、部分浴などの支援をしている。入浴したくない利用者には、無理強いせず、時間を空けて声かけするなど、工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり眠たくなる時間に入床していただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専用のファイルに薬の効能や副作用、用法、用量をまとめ確認している。服薬の確認は職員2名で行い症状に変化があれば主治医に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし一人ひとり出来ることを日常生活の中で行えるような環境を作り、散歩、外出、家事を行えるよう支援している。	テレビの視聴、童謡を歌う、カラオケ、ことわざクイズ、脳活性化ドリル(計算、ぬり絵)、食前体操、口腔体操、風船バレー、拠点施設に訪しているボランティアとの交流、事業所での誕生会や敬老会、クリスマスのケーキづくりとビンゴ大会、年始の福笑いやカルタ取り等のイベント、食事の前のお膳やテーブル拭きなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が喜びや張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特定のご利用者様は定期的に外部の受診をされている。ご利用者様の重度化や職員不足により外出が難しい現状である。また、ご家族も遠方な方、高齢、仕事事情により参加は難しくなっている。	日常的に拠点内の他施設に行き、利用者との交流を楽しんでいる。お花見ドライブツアーを企画するも新型コロナウイルス感染症予防対策のため実施できなかったため、管理者がホワイトボードに日本地図を描いて、利用者にならどこに行き、何を食ったか等尋ねながら、仮想外出の支援を行っている。家族の協力で市外の墓参や医療機関受診の同伴外出を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の管理はご家族がされている。必要な物や本人の希望があった場合は家族に連絡している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが、電話はいつでも使用できる。現在はオンライン面会を実施している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やエレベーター横に季節の花が生けてある。季節感を取り入れるよう食堂のカレンダーを毎日見ていただいている。夏場は少しカーテンをしめて暑さ対策をし室温・湿度管理を快適に過ごせるようにしている。	事業所は3階建て建物の3階にあり、利用者はエレベーターを利用して出入りしている。居間兼食堂は自然の光が差し込んで明るい。壁には季節のカレンダーが飾ってある。広く長い廊下には多種の椅子やソファ等配置し、職員が野の花を生けて、ゆっくりくつろぐことができるよう工夫してある。利用者ひとりが心穏やかに1日を過ごせるよう、テレビ視聴や食事がしやすいように、テーブルや椅子の配置を工夫している。温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごすことができるよう工夫している	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人ひとり個室になっている。共用空間では、ソファの設置により気の合った利用者様同士過ごせる工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスは施設の物もあるが個人の家具、テレビ、布団など使い慣れたものを持ち込まれたり、壁に思い出の写真を貼るなどされ居心地よく過ごされる。	使い慣れた寝具、椅子、衣装ケース、テレビ等を持ち込んで、家族の写真や思い出の写真などを飾って安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、居室内に手すりを設置し、安全に歩行できるようにしている。廊下も広く、杖歩行・歩行器歩行の方も自立できるようにしており居室前に名前を掲示することで確認し自立した生活を送ることが出来る。		

2. 目標達成計画

事業所名 ハートホーム宮野グループホーム

作成日: 令和 2 年 12 月 5 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		今期はコロナウイルス感染対策・予防につき開催が不十分だった。また運営推進会議の参加者が少ないため、地域メンバーを増やし、実際の運営に生かす意見を多く引き出す。	日程は1ヶ月前に連絡し民生委員や地域住民が参加したくなる運営推進会議を行い、より地域に根付いたグループホームにする。	他のグループホーム等の運営推進会議の内容を聞き、参考にする。地域には電話や直接出向いて自部署を知っていただき、参加していただけるようアピールする。	12ヶ月
2		今期も外部研修への参加者が管理者のみなので、他の職員もスキルアップ出来る場を設けたい。	外部研修に職員が積極的に参加する。現在1名他研修申し込み(来年度参加予定)	研修案内が届いたら管理者のみではなく、他の職員も閲覧できるようにする。個別に興味がありそうな職員には声を掛けてみる。希望者が参加出来るよう勤務を調整する。	12ヶ月
3		緊急時のマニュアルもあり、勉強会を行っているが、全職員が応急手当や初期対応が出来るようにしたい。	緊急時は慌てず報告・連絡等、初動作対応が迅速にでき全職員が応急手当や初期対応が出来るようになる。	定期的に勉強会や訓練を行う。全員参加は勤務の関係で難しいので、同じ勉強会を何度か行い、全員が応急手当や初期対応が出来るようにする。	12ヶ月
4		災害対策における訓練においての地域との協力体制の構築	災害時に多くの地域の方に協力していただけるような体制を作る。日程は事前に1ヶ月前には連絡する。	消防訓練や地震・水害時の避難方法などの訓練時に地域の方に参加していただけるよう地域を回って日程等を案内する。一度きりにならないよう参加者には次回の案内も行う。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。